

沼隈農園で第2期生がぶどう栽培の研修を始める

【平成29年3月14日掲載】

広島県のぶどう産地では、生産者の高齢化、担い手不足等により、生産量が減少しており、新たな担い手の確保および育成が課題となっています。

そこで、JA広島果実連は、平成27年11月に広島県果樹農業振興対策センター・沼隈農園（福山市沼隈町中山南）を設置しました。今年で2年目を迎え、昨年12月から第2期生2名の研修が始まっています。

市内在住の山本圭一（やまもとけいいち）さんは農家出身ではありませんが、両親から勧められてぶどう作りを体験し、そこで物作りの楽しさ、自分の責任で結果が出る農業の魅力を感じ、就農したいと思い研修生になりました。

同じく市内在住の村上知弘（むらかみともひろ）さんも、農家出身ではありませんが、物作りが好きで、農業は自分に合っていると思い研修生になりました。

現在は、平成27年から研修を開始した第1期生4名とともに座学や栽培実習を通じてぶどうの基礎知識や栽培技術の習得に励んでいます。

研修生6名（1期生4名、2期生2名）は研修修了後、沼隈町内で就農する予定です。



【研修生6名のみなさん：左下から山本さん、右田さん、村上（正）さん、左上から村上（知）さん、西森さん、岡本さん】



【指導所による座学研修】